

みんなに「やさしい学校」とは？

< 小学校高学年 >

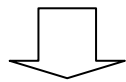
目的 子どもたちにとってどんな学校であるか視点を決めて学校を見直し、学校生活をよくしようとする態度を育む。

気づく

これまでの学習から私たちの学校について考えよう

(社会) 水道： な学校 ごみ： な学校 消防： な学校
(総合的な学習の時間) アイマスク、点字、手話、車椅子： な学校

社会
水道： 便利な学校
ごみ： きれいな学校
消防： 安全な学校
総合的な学習の時間
・やさしい学校
・たのしい学校
・便利な学校等

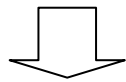


広げる深める

みんなに「やさしい学校」について考えよう

みんなに「やさしい」ということについて、なぜそう思ったのか具体的な理由を発表する。

車椅子の人にやさしい学校
障害のある人にやさしい学校
誰にも楽しい学校
安心できる学校



計画する

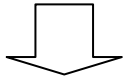
学校探検をしよう

(見つける視点をはっきりさせる)

- ・視覚障害者グループ
- ・聴覚障害者グループ
- ・身体障害者グループ
- ・高齢者グループ

グループを作り、どんな立場から探検するか考える。
本当に「やさしい」かどうか確かめるために、学校探検に出かける。
なぜそう考えたのか理由をしっかりと考える。

車椅子が通りやすいか
足の不自由な人にとってどうか
目の見えない人にとってどうか
手が使えない人にとってどうか
などさまざまな場合を考える。

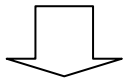


実践する

「やさしい学校」にあてはまる場所を探そう

学校探検で見つけた「やさしい」ところを記録する。
そのように考えた理由も記入する。

車椅子が通れる。
階段が広い。
廊下が広い。
ドアが引き戸である。
手すりがある。
トイレがひろい。
など



振り返る

何ができるか考えよう

模造紙大の学校地図に、調べたことを色分けして書き込む。
私たちの学校は「やさしい」学校といえるか、グループで相談しながら、
学校の大地図に調べたことを見やすくまとめる。どのようなところを改善
すればよいか考える。
ものや設備以外にも、「やさしい」と感じることは何か考える。

「やさしいところもあるけれど、そうでないところも結構ある」など子どもの気づきを中心に発展させていく。
ハード面ばかりでなくソフト面にも広げる。



【学習を進めるにあたって】

- ・「便利な学校」「楽しい学校」など、いろんな学校を想定して課題の発見につなげることができる。
- ・学校の施設面だけでなく、人間関係や友だち関係などソフト面へ視野を広げた学習に発展させていくことが必要である。
- ・学校以外の施設や地域にも応用が可能である。